



山口国体の大会運営について（平成 22 年 12 月）

先般開催された千葉国体で、県勢は天皇杯 13 位と、目標の 15 位以内を達成する大健闘でした。

私が県協会の会長を拝命していますハンドボール競技も、少年男子が県勢として 18 年ぶり 10 回目の優勝を果たすなど、男女揃ってハンドボール王国復活を思わせる好成績を収め、本当に嬉しく思っております。

山口国体の開催を来年に控え、5 月以降、県内各地で、競技別のリハーサル大会と位置付けた全国規模の大会が開催されています。

このリハーサル大会は、開催気運を盛り上げること、本番での成功に向けて、会場の市町や競技団体等、関係者の皆さんが大会運営のチェック等、大変重要なものであります。

周南市でも、レスリング、テニス、ハンドボール競技のリハーサル大会が開催されました。多くの生徒やボランティアの方が運営補助に汗を流されていまして、会場の周辺では、プランターやのぼりを設置するなど、選手の皆さんを歓迎する様々な取組が行われ、貴重な実践の場となったのではないかと思います。

その一方で、こうしたリハーサル大会を通じて、来年の本番に向けた課題や改善点も見え、その中には、その競技や開催地固有のものもあれば、すべての競技に共通するような運営上の課題といったものもあるのではないかと思います。

来年の本番を成功させるためには、見えてきた課題等をしっかりと検証し、

見直しを行った上で、その検証結果を全ての競技会に確実に活かしていくことが重要です。

リハーサル大会の検証を踏まえ、本番での円滑な大会運営に向け、今後どのように取り組まれるのかお伺いいたします。

〔太田国体・障害者スポーツ大会局長答弁〕

既に、これまで 27 競技 30 大会が終了しておりますが、各大会の検証結果を見ますと、競技運営面では、競技係員、ボランティアとして貴重な実践を積むことができたという評価がある一方、課題としては、市町と競技団体との役割分担が不明確なことや打合せ不足、競技役員・補助員の配置計画の見直しなどがあげられ、様々な課題が出てきています。

このため、引き続き競技担当者をリハーサル大会に派遣し、競技運営の状況把握を行うとともに、検証結果の中から、各競技会に共通した反省点や課題などについて、様々な場を利用して、市町や競技団体にフィードバックし、万全な対策がとられるよう、助言・情報提供を行ってまいりたいと考えています。

本番に向けて、リハーサル大会の検証結果を十分に活かしながら、円滑な競技会運営が行なわれるよう、会場地市町や競技団体と一体となって、全力で取り組んでまいります。